株主の皆様へ

第109期 中間報告書

2020年4月1日～2020年9月30日

山陽特殊製鋼株式会社

証券コード｜5481

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

ここに、第109期第2四半期（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の営業の概況等をご報告申しあげます。

営業の概況と今後の見通し

当第2四半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により急速に悪化し、極めて厳しい状況となりました。緊急事態宣言解除後は、各種政策の効果もあり社会経済活動のレベルが少しずつ上がっていく中で、持ち直しの動きもみられるものの、感染再拡大の懸念や内外経済に与える影響に加えて、米中通商問題等による海外経済の不確実性の高まり等により、依然として不透明な状況にあります。特殊鋼業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により特殊鋼需要が大幅に低下し、特殊鋼熱間圧延鋼材の生産量は、前年同期を大きく下回る水準で推移しました。

このような中、当社グループの売上高は、当社単体の売上数量が新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少したことなどにより、前年同期比489億円減の972億円となりました。利益面では、経常損益は前年同期比62億円減の40億円の赤字、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期比47億円減の33億円の赤字となりました。

通期の連結業績予想につきましては、足下の受注状況や顧客動向などから、売上高は2,050億円、営業損益は73億円の赤字、経常損益は75億円の赤字、親会社株主に帰属する当期純損益は66億円の赤字を見込んでおります。

なお、当期の中間配当につきましては、当第2四半期の親会社株主に帰属する四半期純損益が33億円の赤字となったことにより、誠に遺憾ながら、無配とさせていただくことにいたしました。また、期末配当につきましても、通期の親会社株主に帰属する当期純損益が66億円の赤字となる見通しであることから、無配の予定とさせていただいております。当社グループといたしましては、引き続き収益改善対策のさらなる上積み等によって、収益の積上げを図るよう努めてまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長　樋口 眞哉

中長期的な環境認識と方針

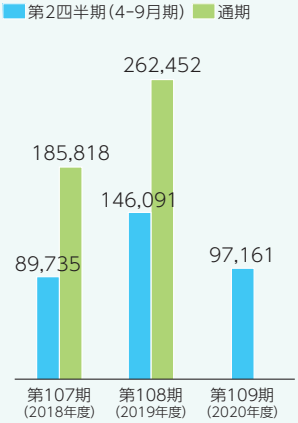
新型コロナウイルス感染症の拡大により大幅に減少した特殊鋼需要は、下期以降徐々に回復に向かうとみられるものの、世界経済の低迷は長引く可能性が高く、感染の恐れが低下した後も、世界的な生活様式全般の変化も加わり、特殊鋼需要が感染拡大前の水準に戻るまでには時間を要する可能性が高いとみております。そのような認識の下、当社グループは、生産・販売が高水準に戻らなくとも、確実に利益を計上することができる強靭な企業体質を構築するため、グループを挙げて固定費の削減、変動費コストダウンに注力し、収益力を高めてまいります。また、日本製鉄、Ovakoとの連携につきましては、引き続き、当社およびグループ会社のポテンシャルを最大限発揮し、相乗効果の早期発現を図ってまいります。

2020年11月

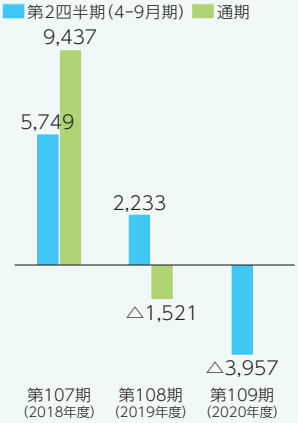
（注）本報告書に記載している業績予想等につきましては、策定時点において入手可能な情報に基づいて当社グループで判断したものであります。
予想には様々な不確実要素が内在しており、実際の業績等はこれらの予想数値と異なる場合があることをお含みおきください。

業績ハイライト・セグメント情報

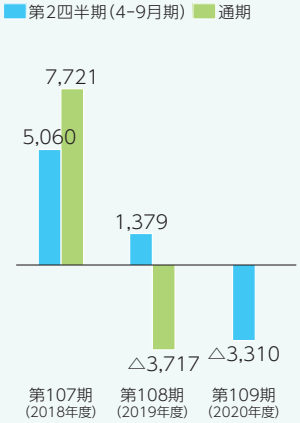
連結売上高 (百万円)



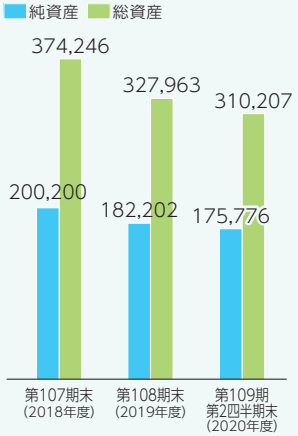
連結経常損益 (百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益 (百万円)



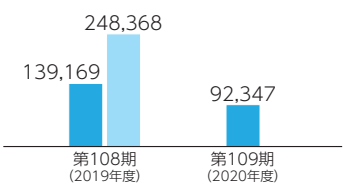
連結総資産・純資産 (百万円)



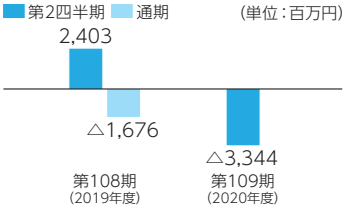
鋼材事業

売上高 923億47百万円
営業損益 △33億44百万円

○売上高



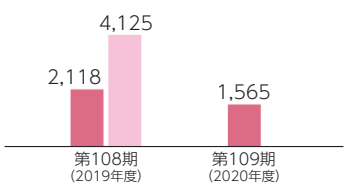
○営業損益



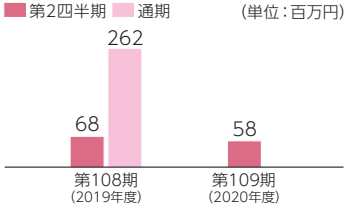
粉末事業

売上高 15億65百万円
営業損益 58百万円

○売上高



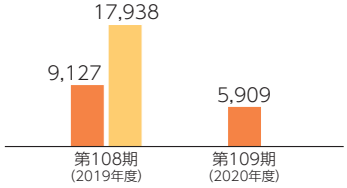
○営業損益



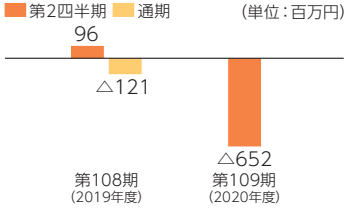
素形材事業

売上高 59億9百万円
営業損益 △6億52百万円

○売上高



○営業損益



財　務　情　報

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科目	第108期 連結会計年度 (2020年3月31日)	第109期 第2四半期 連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産	163,519	150,436
固定資産	164,444	159,770
資産合計	**327,963**	**310,207**
負債の部		
流動負債	90,585	80,466
固定負債	55,174	53,964
負債合計	**145,760**	**134,431**
純資産の部		
株主資本	185,060	181,747
その他の包括利益累計額	△6,697	△9,245
非支配株主持分	3,839	3,274
純資産合計	**182,202**	**175,776**
負債純資産合計	**327,963**	**310,207**

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	第108期第2四半期 連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	第109期第2四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	**146,091**	**97,161**
売上原価	125,977	87,246
売上総利益	**20,114**	**9,914**
販売費及び一般管理費	17,496	13,805
営業損益	**2,617**	**△3,890**
営業外収益	464	473
営業外費用	848	540
経常損益	**2,233**	**△3,957**
特別利益	729	—
特別損失	861	166
税金等調整前四半期純損益	**2,101**	**△4,123**
法人税等合計	1,008	△524
四半期純損益	**1,092**	**△3,599**
非支配株主に帰属する四半期純損益	△ 286	△289
親会社株主に帰属する四半期純損益	**1,379**	**△3,310**

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

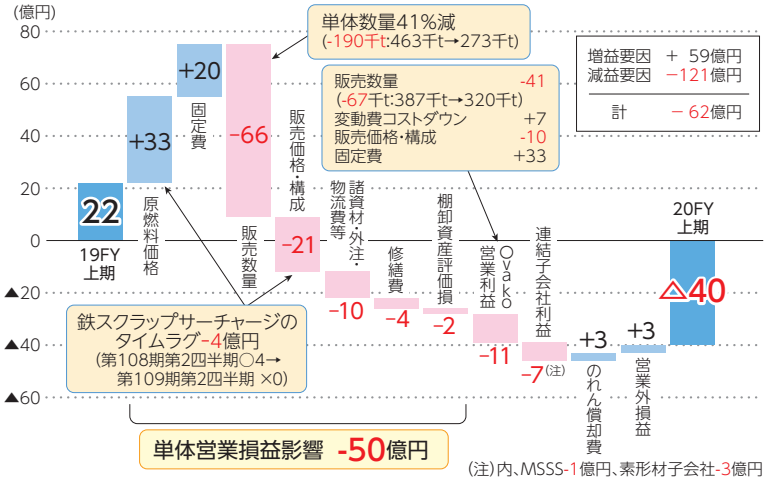
	第108期第2四半期 連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	第109期第2四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー（A）	16,362	17,107
投資活動によるキャッシュ・フロー（B）	△ 1,024	△14,110
フリー・キャッシュ・フロー（A+B）	15,337	2,996
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 17,193	1,806
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 591	△387
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 2,447	4,415
現金及び現金同等物の期首残高	21,792	27,219
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,344	31,635

	第108期末(2020年3月31日)	**第109期第２四半期末(2020年9月30日)**
自己資本比率	54.4%	**55.6%**
D／Eレシオ※	0.27倍	**0.26倍**

※ 純資産残高に対する有利子負債残高(現預金および関係会社預け金残高控除後)の割合

【ご参考】

当第2四半期経常損益の変化要因



(注)内、MSSS-1億円、素形材子会社-3億円

当第2四半期の経常損益は、前期の第4四半期から実施している緊急収益改善対策(役員等報酬や管理職給与の一部自主返上、雇用調整助成金制度を活用した休業の実施、残業の削減やその他経費の削減等)の効果、当社および国内連結子会社の有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法へ変更したことによる減価償却費の減少、鉄スクラップを中心とする原燃料価格の低下等はありましたが、当社単体の売上数量の減少や鉄スクラップサーチャージの適用に伴う販売価格の低下などにより、経常損益は前年同期比62億円減の40億円の赤字となりました。

2020年度通期業績予想の修正について

(単位：億円)

	前回予想 (2020年7月31日公表)	今回予想 (2020年10月29日公表)	増減	前期実績 (第108期)
売上数量(千トン)	1,283	**1,306**	+23	1,615
売上高	2,000	**2,050**	+50	2,625
営業損益	△77	**△73**	+4	△14
内、当社単体	6	**7**	+1	36
内、Ovako(1月～12月)	△35	**△33**	+2	△6
内、MSSS(1月～12月)	△11	**△10**	+1	△9
内、のれん償却費	△25	**△26**	−1	△29
経常損益	△80	**△75**	+5	△15
親会社株主に帰属する当期純損益	△71	**△66**	+5	△37
1株当たり当期純損益(円/株)	△130.29	**△121.12**	+9.17	△67.14

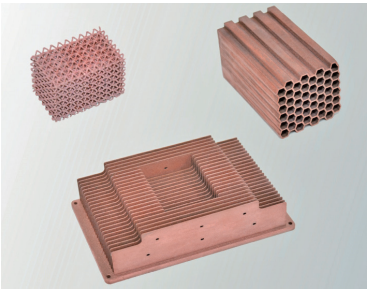
新型コロナウイルス感染症の影響による売上数量の落込みは、7−9月に底を打ち、年内は影響が残るものの、徐々に回復していくとみています。通期の連結業績予想につきましては、売上数量の増加や固定費削減の積み増しなどにより、2020年7月31日に公表した前回予想に対して、売上高は+50億円、経常損益ならびに親会社株主に帰属する当期純損益はそれぞれ+5億円改善する見通しです。引き続きグループの総力を挙げて収益改善対策の上積みを図り、さらなる収益の改善を図ってまいります。

3D造形性に優れた銅合金粉末を商品化

高密度な3D造形が可能で、純銅に準ずる導電性・熱伝導性と純銅以上の強度を引き出せる銅合金粉末を商品化しました。

純銅は導電性・熱伝導性に優れる一方、他の金属に比べてレーザー吸収率が低いため、広く普及しているレーザー方式の3Dプリンターでは造形が困難です。銅の合金化により3D造形は可能になりますが、銅本来が持つ導電性や熱伝導性が犠牲になり、造形性との両立が課題でした。

当社が開発した銅合金粉末を用いた3D造形を適用することで、従来の工法では難しかった複雑な形状にも対応が容易となり、電子・電気機器や熱交換器等の部品形状の最適化等が期待できます。



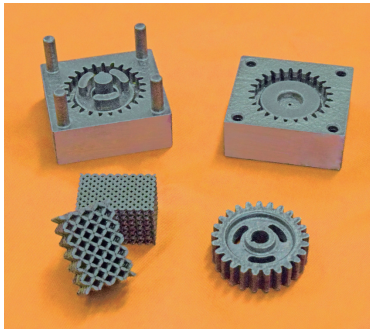
3Dプリンターによる造形例

コバルト(特定化学物質)を使用しない3D造形用マルエージング鋼粉末を商品化

特定化学物質であるコバルトを使用しない3D造形用マルエージング鋼粉末を商品化しました。

マルエージング鋼は、熱処理を施すことによって高強度と高靭性を併せ持つことから、産業機械、自動車、航空・宇宙分野等で幅広く使用されています。その3D造形への適用は金型用途を中心に拡がっていますが、3D造形には粒径100μm前後の微細な粉末が用いられるため、特定化学物質であるコバルトを含有するマルエージング鋼粉末を取り扱うには除塵装置等の健康障害防止措置が必要でした。

当社が開発した3D造形用マルエージング鋼粉末は、コバルトを添加せずに従来のマルエージング鋼に匹敵する高強度と高靭性を実現しました。これにより、健康障害防止措置が不要となり、マルエージング鋼が使用されていた高強度・高靭性が求められる金型や部品等への3D造形適用が容易となります。



3Dプリンターによる造形例

「パートナーシップ構築宣言」を公表

サプライチェーンにおける取引先の皆様との連携・共存共栄を進めることで、サプライチェーン全体での付加価値向上を目指す「パートナーシップ構築宣言」を公表いたしました。

「パートナーシップ構築宣言」とは、下請取引の適正化を進め、サプライチェーン全体での付加価値向上や、規模・系列等を越えたオープンイノベーションなどの新たな連携に取り組むもので、内閣府、中小企業庁が推進しています。

当社は引き続き、取引先の皆様とのパートナーシップの強化を通じて、ビジネスパートナーとして相互の発展を目指してまいります。

パートナーシップ構築宣言

脱炭素社会の実現に向けたイニシアティブ「チャレンジ・ゼロ」に参加

一般社団法人日本経済団体連合会（以下「経団連」）が主導する「チャレンジ・ゼロ」に参加しました。

「チャレンジ・ゼロ」とは、経団連が日本政府と連携し、気候変動対策の国際枠組み「パリ協定」が長期的なゴールと位置づける「脱炭素社会」の実現に向けて、企業・団体がチャレンジするイノベーションを国内外に力強く発信し後押しするイニシアティブです。

当社は、「チャレンジ・ゼロ」の趣旨に鑑み、引き続き事業活動を通じた温室効果ガス排出削減と脱炭素社会の実現への貢献に向けたイノベーションの創出を推進してまいります。

当社のイノベーション事例

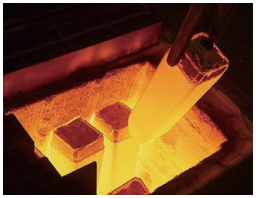
- 長寿命風力発電用軸受鋼の開発によるCO_2ゼロ・エミッション化への貢献
- 熱交換器用高強度耐熱鋼管の開発による各種工業炉操業におけるCO_2排出量削減

※経団連「チャレンジ・ゼロ」特設ウェブサイト（https://www.challenge-zero.jp/jp/member/158）にてご覧いただけます。

欧州子会社Ovakoが水素を用いた鋼片加熱を行うテストに成功

当社の欧州子会社Ovakoが、世界で初めて水素を用いた鋼片加熱テストに成功しました（Linde Gas社との共同テスト）。

製造する特殊鋼製品の品質への影響もなく、この技術での生産を行えば鋼片加熱時にCO_2を発生させないため、従来に比べて環境負荷を大幅に軽減することができます。Ovakoの試算によると、このテストを実施したHofors工場において、年間20,000トンものCO_2削減が可能となります。



水素による鋼片加熱テストに成功したOvako Hofors工場のピット炉

新型コロナウイルス感染症への対応について

当社は、グループ社員の安全確保のために「感染症対策ワーキングチーム」を設置し、感染影響の状況を踏まえつつ、各事業拠点において、出社する社員を対象としたサーモグラフィカメラ等による検温の実施や、手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用の励行、在宅勤務環境の整備、勤務中の対人距離確保等の感染防止策を実施しております。

今後もお客様や社員等の安全を最優先として感染拡大防止に努めるとともに、適切な事業継続を図ってまいります。

2020年4月、姫路市および厚生労働省に、医療用N95マスクをそれぞれ1,000枚寄贈しました。

株　式　情　報

■株式の状況

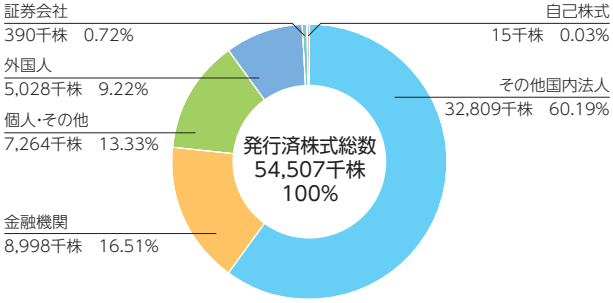
2020年9月30日現在

発行可能株式総数…… 94,878,400株

発行済株式の総数…… 54,507,307株

株主数…… 11,414名

株式の所有者別分布状況



大株主

株 主 名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本製鉄株式会社	28,863	53.07
山陽特殊製鋼共栄会	2,500	4.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,534	2.82
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,172	2.16
株式会社三井住友銀行	1,139	2.09
日本精工株式会社	772	1.42
山陽特殊製鋼従業員持株会	758	1.39
株式会社みずほ銀行	728	1.34
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	621	1.14
株式会社三菱UFJ銀行	569	1.05

※持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

■株主メモ

事　業　年　度　毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会　6月下旬

同　基　準　日　3月31日

配当の基準日　期末配当　3月31日
中間配当　9月30日

公　告　方　法　電子公告
【アドレス】www.sanyo-steel.co.jp/
事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、
日本経済新聞に掲載して行います。

上場証券取引所　東京(証券コード 5481)

株主名簿管理人　三井住友信託銀行株式会社

(事務取扱場所)　大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)　〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(お問合せ先)　【フリーダイヤル】0120-782-031
受付時間 9:00～17:00(土日休日を除く)

(インターネットホームページURL)
https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

(よくあるご質問(FAQ))
https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal